

おほとものすくねやかもち  
大伴宿禰家持、  
娘子の門に到りて作る歌一首

七〇〇番

かくしてや なほや退らむ 近からぬ 道の間を  
なづみ参る来て

かふちのももたのをとめ  
河内百枝娘子、  
おほとものすくねやかもち  
大伴宿禰家持に贈る歌二首

七〇一番

はつはつに 人を相見て いかにあらむ いづれ  
の日に かと また外に見む

七〇二番

ぬばたまの その夜の月夜 今日までに 我は忘  
れず 間なくし思へば